

団長の独り言

5月4日(日)

「無理の出来ない年齢の中でも」

この団長の独り言、紙面版として発行し始めて、今回号で1000回となった。

カウントし始めたのは紙面版も作るようになってからなので、設立時に描きはじめた「演出日記」や「代表のつぶやき」もカウントしたら、すごい回数となる。

「継続は力！」

力になっているのかどうか分からないけれど、多くの方々が「団長の独り言」を読んで下さっている事に感謝しつつ、みくんなに公開しているから全然独り言になっていないけれど、記念すべき1000号の「独り言」を今回もお届けいたします。

さて、大型連休でした。

今年は4月27日(土)から29日(月)と、5月3日(金)から6日(月)までが連休って人が多いんだよね。

私とは言えば……どちらの連休も土曜日、日曜日は7月公演の稽古。

それに4月29日(月)は用事があったし、5月3日と5月6日は仕事な

ので、今年も連休だからという事で、何かが出来たわけでもなく、普通に土日の稽古に集中しました。

本来であれば連休中、少しでも空いた時間があれば、極力GYMに行くのだが、4月20日くらいかな？GYMでダンベルプレスをやっている最中に、重さ80ポンド(約36.3kg)のダンベルをガターンと落としてしまい、右肩を負傷してしまったのです。

激痛が走ったのでその場で辞めれば良かったのに、「やっているうちに治る」って思い込み、そのまま痛みを堪えて、そのあとのメニューもこなしたら、翌朝、車のハンドルも持てないくらいの痛みが肩に残り、でもそのうち治ると思い、また翌々にGYMでベンチプレスをやったら、ウォーミングアップで上げる70キロすら肩に激痛が走り上がらない。

ウエイトを軽くして、そのままベンチプレス、ダンベルプレス等、いつものメニューをこなすが全然ダメ。そこでようやく「辞める勇氣」を出し、泣く泣く途中で筋トレを辞めて、「ランニングマシン」に乗ったけれど、腕を肩まで上げるだけで痛みがある。

「これはただ事ではない！」と悟り、4月29日に整形外科に行き、MRIを撮ると肩の筋肉が断裂している。とりあえず1か月間安静にして、それでも痛みがあるようであれば、手術かも！なんて大袈裟な事を若い医師に言われてしまう。

「痛い！」と思った瞬間すぐさま辞めて、しばらくGYMに行くのを我慢すれば良かったのに……大反省。

私って、若い頃から「病気は気合で治すタイプ」。

痛みくらいでトレーニングをやめるなんてのは、自分に負けるようで耐えられない性格だったんだけど、60歳を過ぎているんだし、身体に不調をきたすと劇団活動に影響を及ぼすわけで、私一人の身体ではないという自覚を持ち、GYMに行くのも我慢して、連休中は過ごしたけれど……ストレスはたまると、しかも全然良くなる気配はない。

日常生活を行う上では、「我慢出来ないくらい痛み」はないので良いけれど、筋肉がどんどん減っていくのじゃないか！？という苛立ちを抑え、まずは完治させることが先決！と肩を

かばいながら、昨日も今日も劇団活動に勤しむ。

昨日は、14時から全員が稽古場に集まり、名前を登録させていたたいている大勢の皆様へ、公演のご案内を送りするための準備作業を行う。

全員が集合してくれるのはなんともありがたく、とっても嬉しい。こうした作業を行う中で、メンバー達がたわいもない会話をするというのも大事な事。

ただし手は動かさねばならないので、おしゃべりに集中することは出来ないが、それなりに、各自がコミュニケーションを取れたのは良かった。

夜はガッツリ稽古を行い、この日は出演者全員参加での「飲み会」を行う。

昔は毎週土曜日に必ずと言っていいほど飲み会を行っていたけれど、約8年前、ベースとなる稽古場が変更になってからは、徐々に居酒屋へ行くペースも落ちて来て、コロナ禍を境に、そんな習慣もすっかりなくなり現在に至るなので、劇団メンバーで居酒屋に行くってはずごく久しぶり。

この日の飲み会には、出演メンバー以外にも、元劇団メンバーの小路さんや、数十年來の劇団ふぁんハウス応援団の堀野さんも飲み会に参加。

小路さんは、ここ数年間ずっと音信不通だったのだが、この日、「さあ、稽古を始めようか！」というまさにその時、

「どもども！お久しぶりです！小路です。今日なんですけど、突然ですが、（いやホントに！）稽古場にお邪魔してもよろしいですかあ？」という電話が掛かってきたからびっくり！（飲み会があるを予知していたか？）

堀野さんは、これまた稽古が始まるちょっと前、私が1階受付にて職員の方と喋っている時、朗読サービスを終え、ちようど出口に向かう堀野さんとはったり会う。

「堀野さん！」と私は彼に声を掛けると、全盲の堀野さんは、私の突然の声掛けに、一瞬「誰だ！？」って感じで、警戒感をあらわにしたけれど、「劇団ふぁんハウスの団長です！」と言うと、「おおおお！」ってなり、そのまま稽古場へ。

二人とも数十年に渡り劇団ふぁんハウスと深くかかわっている方々。

そこで稽古を御覧になった後の飲み会にも参加してもらうが、その飲み会は、それはそれは、もうねえー飲んべえさん達が大勢いるってのもあり、めちゃくちゃ盛り上がった。

翌日、この日の稽古でも、前回公演とはガラリと変わる場面が続出。

特に「あのシーン」の「あの場面」は、稽古場にいる誰もが「その役者」の「あのセリフ」が心に刺さり、稽古にいる全員が涙を流すほど、芝居が変化していた。

「新しい演出」ってのを計算しているわけでは全くないんだけどね。

稽古を重ねる度に、インスピレーションで次々と新しい演出が湧いてくるのですよ。

次回、どんな進化が待っているのか？私と役者の真剣勝負は続くのであります。